

## 15歳のわたしへ

15歳のわたし、こんにちは。わたしは25歳のあなたです。

今こうして手紙を書くことになって、改めてもう10年も経ったのかと驚いています。あなたは今、中学3年生で、来年の高校受験に向けて自分なりに一生懸命勉強していることでしょう。ちょうど家の改装をしていて、とても窮屈な思いをしながら。

10年が過ぎ、25歳になったわたしは実は京都で大学生をしています。来年の春には卒業して、夢に向かって頑張ろうと準備している途中です。

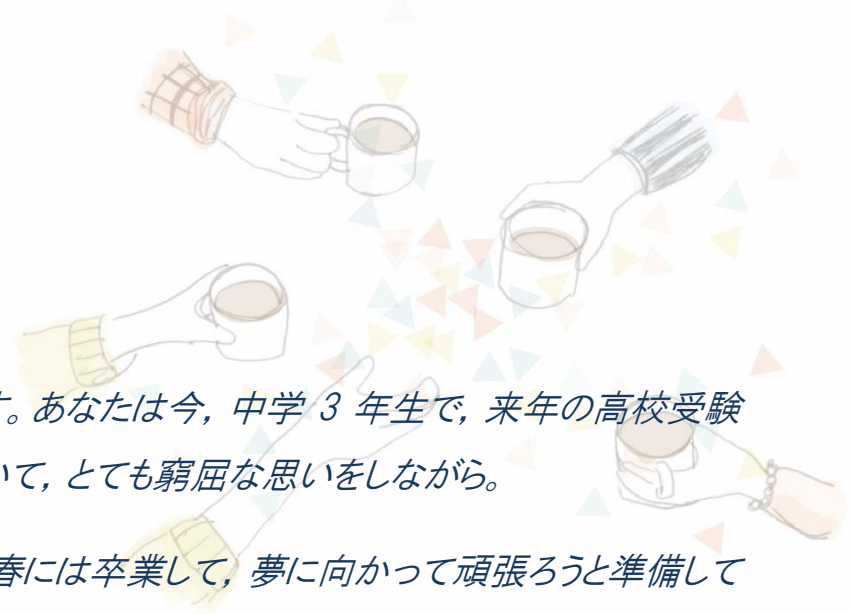
わたしは今あなたが目指している「声優」という職業ではなく、やりたいと思える学問を見つけ、大学卒業後は海外の大学院に進学しようと頑張っています。英会話にも通い始めました。あなたと同じ受験生です。

15歳の自分自身を思い出してみると、今にも繋がっていることがたくさんあります。現在も仲の良い友達もいるけれど、人間関係の悩みも抱えていたことを憶えています。例えば、女だけ見た目や声、振る舞いが「女らしくない」と同級生の男の子にからかわれたり、クラスの中の女子グループが分かれていて、仲の良い関係が保てなかったり、居心地は正直良くなかったと思います。あまりクラスが好きじゃなかったし、その分、勉強ができることをどこか自慢げに感じていたところがあったと思います。

だけど、あなたはこれから何度も自分自身に迷います。

自信をもって取り組んだ高校受験は、当日のプレッシャーで頭が真っ白になって第一志望の高校に落ちます。その後も希望校ではなかった高校に居場所を感じられず辞めてしまい、憧れていた「声優」の夢も劇団に入り1年で挫折しました。

大学受験では、家族のおかげで予備校に通いながら入学できました。（何年も苦勞しましたが）



思い通りにすべてが上手くいくことなんてそうそうないことを知りました。

しかし、この10年間で学び糧になったことがたくさんあります。

右往左往し、自分自身の気持ちを大切にしてきたことで、出会うことのできた縁があります。3年遅れて入った大学では、大事な人に出会いました。この10年で、自分との向き合い方や支えてくれる周りの人達の大切さに気付くことができました。15歳のあなたには想像がつかないかもしれませんが、何年も付き合えるパートナーにも出会いました。

時間が過ぎれば、「あの時に自分の気持ちに正直に生きて良かったな」と思うことが多くあります。今では、悩んでいたことをこうして口にできること、それも自分一人ではなく、まさに人との「縁」で繋がることばかりです。

この前は、あなたが今通っている母校の中学校に教育実習に行きました。その中で、後輩と楽しい時間が過ごせました。

(そして)今、わたしが大学で学んでいることは何だと思えますか？

「ジェンダー論」という学問です。

この学問は、今のあなた自身がまさに「現在進行形」で抱えている悩みに繋がっています。

そんな今のわたしから言えることは、自分の気持ちを大切に素直な自分と向き合って生きてほしいということです。

なぜなら、15歳のあなたが悩んでいることは間違いなく今のわたしに繋がっていて、あの時に「どうして？」と思ったことは、10年経って振り返れば、「原点」だったと感じているからです。

長くなりましたが、壁があっても、周りの人たちと違うことがあっても、諦めずに向き合う気持ちを忘れないで下さい。

あと、いつも誰かに支えられていることを忘れないで。

わたしもこれからも楽しく、挑戦する気持ちをもって生きていきます。

25歳のわたしより  
あの時のわたしへ